

平成 27 年 3 月 16 日

保護者様

京都市立岩倉南小学校
校 長 今村 ひろみ

平成26年度 後期学校アンケート結果報告

早いもので、6年生が晴れの門出を迎える日も間近となってまいりました。今年度も保護者・地域の皆様方よりご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、後期の学校アンケート結果を報告させていただきます。今回も、前期同様「京都市学校評価支援システム」を活用し、同じ評価項目で冬季休業前にアンケートを実施しました。前期と比較しながら、今年度の取組を見直し、来年度に向けていかしていきたいと考えています。

保護者アンケートの分析結果の見方については、下記に再度掲載しておりますのでご覧ください。前期の結果報告、この後期結果報告の文書は、学校ホームページの「学校評価」の中でご覧いただけます。

3つの分野

(1) 確かな学力 (2) 豊かな心 (3) 健やかな体

● 学校評価支援システム（「ニーズ調査型」アンケート）を活用しての分析結果 （保護者アンケート 集計表）の見方

＊『ニーズ度』は『重要度』×（8－『実現度』）で計算され、最高値は「49」です。
『重要度』が高く、『実現度』が低いほど『ニーズ度』の値が高くなり学校の課題と考えます。
『ニーズ度』が「25」を超えるものは、重点課題に位置付けられ、網掛けで表示されますが、今回はありませんでした。

＊今回はニーズ度が低い状態にある順に質問項目を並べ替えています。

＊重要度・実現度の最高値は「7」です。7に近いほど、重要であり、実現もできていると判断します。

＊ニーズ度の値が低いほど良い状態にあると考えられます。

（ ）は前期の値

質 問 文

重要度

実現度

ニーズ度

子どもは、楽しく学校に通っている。(2)	6.8(6.9)	6(6.1)	13.8(13.1)
子どもは、友達と仲良くしている。(2)	6.7(6.7)	5.6(5.7)	16(15.4)
子どもは、学校やクラスのルール・約束事を守っている。(2)	6.7(6.7)	5.3(5.3)	18.2(18.1)
子どもに、人を大切にする気持ちが育っている。(2)	6.8(6.8)	5.2(5.1)	18.9(19.7)
子どもは、学校であったことを家庭で話している。(2)	6.4(6.4)	5(5)	19.3(19.2)

＊評価項目の後の（ ）は、3つの分野を表します。

＊「重要度」の特に高い値と「実現度」の特に低い値には、網掛けがしてあります。

●保護者アンケートの集計結果及び考察

() は前期の値

3つの分野 (1)確かな学力 (2)豊かな心 (3)健やかな体

質問項目	重要度	実現度	ニーズ度
子どもは、楽しく学校に通っている。(2)	6.8(6.9)	6(6.1)	13.8(13.1)
子どもは、友達と仲良くしている。(2)	6.7(6.7)	5.6(5.7)	16(15.4)
子どもは、学校やクラスのルール・約束事を守っている。(2)	6.7(6.7)	5.3(5.3)	18.2(18.1)
子どもに、人を大切にする気持ちが育っている。(2)	6.8(6.8)	5.2(5.1)	18.9(19.7)
子どもは、学校であったことを家庭で話している。(2)	6.4(6.4)	5(5)	19.3(19.2)
子どもは、家庭で好き嫌いなく食べている。(3)	6.3(6.4)	4.9(4.8)	19.4(20.5)
子どもは、友達のがんばりを認め、励まし、助け合える。(2)	6.7(6.6)	5(4.7)	19.8(21.8)
子どもに、早寝・早起き・朝ごはん等の習慣が身に付いている。(3)	6.7(6.8)	5(5.2)	20.1(19)
子どもに、基礎的な学力がついている。(1)	6.9(6.9)	5.1(5.2)	20.3(19.3)
子どもは、授業が分かっている。(1)	6.8(6.9)	5(5.2)	20.4(19.3)
子どもは、自分のことは自分でしている。(3)	6.6(6.6)	4.9(5)	20.6(19.8)
子どもは、外遊びなどでよく体を動かしている。(3)	6.6(6.6)	6.4(5.2)	21(18.5)
子どもは、平日に家庭で、学年×15分間机に向かっている。(1)	6.2(6)	4.5(4.7)	21.7(19.8)
子どもは、次の日の学習の準備をしている。(1)	6.3(6.4)	4.5(4.6)	22.2(21.8)
子どもは、進んで挨拶をしている。(2)	6.7(6.7)	4.6(4.5)	22.7(23.5)
子どもは、人の話をしっかり聞ける。(1)	6.9(6.8)	4.6(4.6)	23.2(23.1)
子どもは、丁寧な言葉づかいをしている。(2)	6.4(6.4)	4.3(4.3)	23.7(23.7)
子どもは、分かるまで学習に取り組んでいる。(1)	6.6(6.7)	4.3(4.5)	24.5(23.5)
子どもは、自分の考えをきちんと言える。(1)	6.7(6.7)	4.3(4.4)	24.6(24.1)
子どもは、家庭でも読書をしている。(1)	6.2(6.1)	4(4.2)	24.7(23.2)

◎考察◎

- ・保護者アンケートの結果から、学校の課題として捉えられるニーズ度が高い分野としては「確かな学力」があげられる。「確かな学力」の分野の中でも、自分の考えを話すことや粘り強く学習に取り組むことに課題があるということは、「学習を通して習得するコミュニケーション力が実生活に生かしている」という実感がまだ弱いと考えられる。今後もさらに「話すこと」「聞くこと」を大切にしたい取組を全校体制で進めていく必要性を感じている。また、「豊かな心」の丁寧な言葉遣いや挨拶についても同様にニーズ度が高く課題である。携帯電話・スマートフォン・電子メール等の普及により、直接目と目を合わせて言葉を交わす機会がどんどん減りつつある今日、友達・家族・教職員・地域の方々など、児童を取り巻く様々な人々の言葉を通してのコミュニケーション力がもっと育っていくことを願っている。言葉を通してのコミュニケーションである「おはようございます」「さようなら」「こんにちは」「ありがとう」「ごめんなさい」等の基本的な挨拶や人に接する時の丁寧な言葉遣いについては、学校生活を中心とした体験を通して学んでいくと考える。まずは、すべての大人が進んで挨拶をしたり、丁寧な言葉遣いをしたりする姿を児童に見せることから始まるのではないだろうか。
- ・丁寧な言葉遣いや挨拶など、人と人との関わりの中で育つ「豊かな心」コミュニケーション力は生きていく上で重要なものであり、「健やかな体」があってこそ育つものである。これが育ってこそ「確かな学力」も向上すると考えられ、3つの分野の相関関係は大きい。また、一つ一つを伸ばし実現させていくことで相乗効果も得られ、互いに高め合っていくことができるのではないかと考える。
- ・学校では、全校一斉読書の取組、本を楽しむ会、朝の読み聞かせなど読書への興味や関心を高める取組をPTAの方々とも一体となって進めているところではあるが、「家庭読書」については毎年の課題である。本校の児童は放課後、習い事などに多くの時間を使っている割合が大きい。いつも手元に一冊の本を用意し、すき間の時間に読書をする習慣をつけていくと良いのではないだろうか。図書館の情報センター化が進む中、学校図書館や岩倉図書館の活用を推進したり、家庭学習や自主学習等に読書をしたり、ブックウォークに取り組んだり、読書は人生を豊かにするものと考え、家庭でも子どもたちと一緒に本を手にとってみんなで読書を楽しんでほしい。

●児童アンケートの集計結果

(低) 1～3年・6組

(高) 4～6年

() 内は、今年度前期の値

(1) 確かな学力		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 学校の授業はよくわかる。	低	53%(60)	42%(36)	4%(4)	1%(0)
	高	51%(53)	42%(42)	6%(4)	1%(1)
2. 学習したことが、身についている。	低	45%(45)	44%(46)	8%(9)	3%(0)
	高	42%(42)	47%(50)	9%(8)	2%(0)
3. 平日、家庭で学年×15分机に向かっている。	低	58%(54)	27%(28)	10%(15)	5%(3)
	高	41%(43)	23%(26)	26%(20)	10%(11)
4. 家でも読書をしている。	低	61%(64)	20%(21)	12%(11)	7%(4)
	高	39%(44)	25%(24)	24%(23)	12%(9)
5. 人の話をしっかり聞いている。	低	48%(50)	41%(44)	7%(5)	4%(1)
	高	32%(34)	55%(53)	12%(12)	1%(1)
6. 自分の考えをきちんと言える。	低	40%(41)	42%(41)	15%(17)	3%(1)
	高	29%(36)	45%(41)	24%(20)	2%(3)
7. わかるまであきらめずに学習に取り組んでいる。	低	61%(62)	31%(31)	6%(6)	2%(1)
	高	34%(39)	46%(39)	16%(19)	4%(3)
8. 家で、つぎの日の学習の準備をしている。	低	79%(79)	14%(17)	4%(3)	3%(1)
	高	67%(64)	22%(26)	9%(6)	2%(4)

* 学ぶ意欲・わかる喜び・達成感 *

◎考察◎

- 多くの項目において、児童が評価した値が前期と比べてわずかではあるが下降しているのは、学年が進むにつれて学習内容が難しくなってきたことや、前期の通知票を手にしたことで、学習の結果や成績によって、自分自身に対する評価の視点が厳しくなったということが考えられる。学ぶ意欲を高め、より児童に伝わる授業の実践を続けていく必要があると感じている。今後も児童が興味をもって、できる・わかる喜びが感じられるような学習を積み重ねていくことを大切にしていきたい。児童自身の学習に向かう姿勢や、そこから生まれる結果をしっかりと認め、家庭とも連携をすることで、改善していけるのではないかと考える。
- 家庭で机に向かうことができているという児童が高学年で増えている。家庭学習は、学力向上、自学自習の習慣から生まれる“計画を立てる力”や“見通しをもって取り組む力”などを育成することをねらいとしている。このようなねらいを意識した宿題や、興味をもって取り組める課題を提供したり、次の日の学習の予習をしたりしていくことで、「もっと知りたい」「学びたい」という意欲につながると考え、今後も内容を工夫して取り組めるよう指導していきたい。
- 「話す力」「聞く力」は基本的に積み上げていく力である。「できていない」と児童自身が評価をするには実際に話したり聞いたりする場面や機会が多くあったからだと考えられる。毎日の授業中の話し合い活動、みなみタイム等全校集会での感想交流などで、もっと「自分の考えを話したい」「友達の考えを聞きたい」と思っているからこそ、自己評価がより厳しくなったのではないだろうか。まだまだ自分で「話す力」「聞く力」が身についていると実感するところにまでは至っていないが、「話したい」「聞きたい」という意欲が高まってきていることに改善点が見られてきているのではないかと考える。

(2) 豊かな心		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 学校に来るのが楽しい。	低	73%(71)	20%(21)	3%(7)	4%(1)
	高	61%(64)	32%(28)	5%(4)	2%(4)
2. 進んであいさつをしている。	低	74%(64)	22%(28)	3%(7)	1%(1)
	高	44%(50)	45%(40)	9%(9)	2%(1)
3. ていねいな言葉遣いをしている。	低	49%(47)	42%(40)	7%(10)	2%(3)
	高	25%(23)	56%(58)	16%(16)	3%(3)
4. 人を大切にしている。	低	71%(74)	25%(24)	3%(1)	1%(1)
	高	54%(58)	42%(38)	3%(3)	1%(1)
5. 友達と仲良くしている。	低	85%(85)	11%(13)	3%(2)	1%(0)
	高	75%(80)	22%(18)	1%(1)	2%(1)
6. 友達のがんばりをみとめ、はげまし、助け合っている。	低	58%(61)	37%(30)	4%(8)	1%(1)
	高	44%(47)	48%(44)	6%(8)	2%(1)
7. 学校やクラスのルール・約束事を守っている。	低	53%(56)	40%(37)	6%(6)	1%(1)
	高	37%(42)	51%(47)	11%(9)	1%(2)
8. 学校であったことを、家庭で話している。	低	60%(60)	28%(28)	8%(7)	4%(5)
	高	57%(54)	26%(31)	11%(10)	6%(5)

人をつなぐ・心をつなぐ・安心感

◎考察◎

- ・「学校に来るのが楽しい」「友達と仲良くしている」と感じている児童が多いのは、学校に来ることに意味を見出し、自分の居場所があると感じている児童が多いと捉えてよいのではないだろうか。友達がいるから学校は楽しい場であると感じられることは、大きな意味があり喜ばしい。しかし、少数の児童ではあるが、学校が楽しい場にはなっていない、学校が面白くないと感じていることを見逃してはいけな。その実態を捉え、家庭とも連携して見守り、対処していく必要がある。
- ・「ていねいな言葉」とは何か、その捉え方によって違いはあるが、ていねいな言葉づかいができていないと感じている児童に目を向けたい。その子たちは、時と場をわきまえた言葉の使い分けができないと感じていたり、つい荒っぽい言葉が飛び出してしまうようである。マイナスの評価ではあるが、実現できていないと気付くことが、今後の改善につながるのではないだろうか。また、友達のがんばりを認められていないと感じていることも、自分が認められていないと感じていることの表れではないだろうか。児童の努力する姿を見逃さず褒めたり、励ましたりする姿勢は、私たち大人に求められていることなのかもしれない。あいさつを含め、学校・家庭・地域が一丸となって地道に取り組んでいく必要性を感じている。
- ・ルールや約束事には必ず意味があり、一人一人を守りいかすためのものであるということを再確認して、規範意識を高めていく必要がある。今年度の初めに確認したルールや約束事が、現在守れなくなってしまうこともある現状を受け止め、「みんなもしているから」という判断ではなく、良いことと良くないことの判断が自分自身でできるようになってほしいと願っている。人の良識によりルールは減らしていけるものであることも知らせ、まずは、子どもたちが信頼できる人間関係をたくさん築いていけるように、周りの大人が子どもたちをしっかりと見守っていくことが大切だと考える。

(3) 健やかな体		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1. 早寝早起き朝ご飯などの生活習慣が身についている。	低	54%(58)	35%(33)	8%(8)	3%(1)
	高	45%(41)	34%(39)	16%(15)	5%(5)
2. 外遊びなどで、よく体を動かしている	低	72%(68)	16%(20)	9%(10)	3%(2)
	高	45%(51)	27%(27)	22%(18)	6%(4)
3. 好き嫌いなく給食を食べている。	低	66%(55)	20%(32)	10%(11)	4%(2)
	高	59%(54)	29%(32)	9%(11)	3%(3)
4. 自分のことは自分でしている。	低	68%(68)	27%(27)	4%(4)	1%(1)
	高	51%(49)	42%(43)	6%(7)	1%(1)

* 自分をつくる良い習慣 *

◎考察◎

- 基本的生活習慣が身についていないことは、学習にも、人との関わりにも支障をきたすと考えている。児童が元気に登校するためには、十分な睡眠や休養が不可欠である。帰宅後の過ごし方は家庭によって違いもあるが、それぞれの生活習慣の見直しや、日々の健康状態の把握については、子どもへのアプローチだけではなく、家庭への協力を呼びかけ、連携していくことが必要である。
- 外遊びで体を動かすことについては、その日の気温や天候によるところも大きいですが、体を動かすことは、体が強くなり、体調がよくなることにつながるということを知らせていきたい。地域での子どもたちの縦のつながりが昔に比べて希薄になってきている中、保護者アンケートの自由記述欄に「子どもに遊び方を教えてほしい」というご意見をいただいた。学校でも、遊び方や体力作りの方法を知らせたり、限られた場所でも工夫して遊ぶ力を身につけたりできるようにしていきたい。
- 食に関する指導の成果もあり、「いただきます」の意味を考えて、給食のおかずを残さず食べるようになってきている。「食べてみよう」と苦手な食材にも手をつける児童が増えた。また、ほとんどの児童が朝ご飯をしっかり食べて登校している。いつも家庭で心掛けていただいている成果である。
- 「自分のことは自分でする」という力はとても大切な力である。自分ですべきこととは何かを考え、学校生活でも、家庭でも、できることを増やしていくことが「自分でできる」という自信や自己肯定感につながっていくのではないかと考える。学校と家庭が協力し、受け身ではなく積極的に自分から行動する土台を作っていきたい。

《学校運営協議会（評価委員会）で報告しました》



～学校運営協議会の皆さまより、岩倉南小学校をより良い学校にするために～

《朝の挨拶・いつも挨拶！！》

- ・低学年の時は元気に挨拶をしていた子も、高学年になると急にできなくなってしまうのはなぜだろう？しかし、卒業して中学生になったら、気持ちをこめた挨拶がとても丁寧にできるようになる。きっと高学年って、ちょっとはずかしいだけなのかもしれない。全校で気持ちの良い挨拶ができるように、周りの大人はあきらめてはいけない。「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」の挨拶がもっと広がる世の中になってほしい。

《公園で・・・》

- ・公園にゴミが落ちているのを見つけたときに掃除をしていると、遊んでいる子どもたちが「私もやります」「ぼくも手伝う」と駆け寄ってきたり、滑り台で遊んでいる子が「いつもありがとうございます」と言ってきたりする姿は大変気持ちがいい。

《友達同士で・・・》

- ・友達を呼ぶときは、呼び捨てではなく「〇〇さん」と言えば次に続く言葉が優しくなる。言葉が荒くなるとそれがいじめにつながっていくことも考えられるのではないかな。
- ・「いやだ」と言っている子に対して行う行為は「いじめ」。「いじめ」が起これないように、そのサインを見逃さないように、家庭と地域と学校が連携して子どもたちの見守りを。

《子どもたちの学力》

- ・アンケート結果から、学力は一定の力を備えていると考えられる。他の課題に目を向けると・・・
 - ＊予習をしていますか？・・・予習をした方が次の日の学習が楽しくなるよ。
 - ＊有名な俳句を学んでみて！・・・小学校で学んだことは教養として大人になっても身につけているよ。
 - ＊四字熟語やことわざに興味をもって！・・・知っていると知識として使えるよ。
- ・美しい言葉と出会い、基礎的なことを学ぶのはやはり読書ではないだろうか。俳句はイメージを広げることにつながっていくのではないだろうか。
- ・1冊の本を10回ぐらい読んでみてはどうでしょう。どこに何が書いてあるのか覚えてしまうぐらい読んでみると、次の本を読むときに役立つこともある。

《心豊かにたくましく》

- ・「たくましさ」を身につけてほしい。「自立と共生」を意識していくことが大切。保護者の協力が不可欠なのではないだろうか。
- ・トラブルが起こったときに、まずは自分たちで解決する力を身につけてほしい。
- ・家庭教育の重要性を感じる。それぞれの家庭がしっかりと親の姿勢を見せ、自分の子どもも周りの子どもも見えてほしい。
- ・時には勝ち負けも必要。勝負することで「嬉しい」「悔しい」気持ちが起こってくる。
- ・家庭だけでなく、地域と学校とのつながりがあるから、子どもたちにも助け合う姿勢が見られ、信頼関係を築き、安心して心豊かに育まれている。

《みんなで見守る目》

- ・地下鉄やバスなどの公共交通機関でマナーや行儀の悪い子どもを見かける。大人も車掌さんまでも、誰も注意しないのが現実。「きれたらこわい」という風潮がみられる社会の中で、大人が子どもに対して言葉や行動で示していくことが重要。大人も子どもも、注意をされたら自分が否定されたと捉えてしまうようだが、今後への期待が込められているということを知らせていく必要があると感じる。

子どもたちの様子を見守っていただいている学校運営協議会の皆さまと意見交流をしました。岩倉南の子どもたちを大切に温かく見守っていただいていることを改めて感じています。子どもたちを中心に、地域と家庭と学校の連携をしっかりとしながら、今回の結果を踏まえて次年度の取組にいかしていき体と思います。アンケートにご協力いただきありがとうございました。